

秋麗の季節、爽やかで良い天気恵まれました。この爽やかは、残暑残りがあった一月前をずっと以前の過去の記憶に押しやります。本企画「昭和記念公園の散策と南極・北極科学館の見学」は、当班が今年の5月に提案したものの雨で流れリベンジでしたものです。新仲間2名も加わって計16名の参加がありました。

公園アクセスに最も近い西立川駅に10:15に集合しました。徒歩2分で公園の西立川ゲートです。立川ゲートに近い「ふれあい広場」でのランチ集合(12:20)まで、2時間弱の自由散策です。

秋を代表する花、キンモクセイ、アメジストセージ、コスモス、キバナコスモス(レモンブライト)などを目当てにおしゃべりしながら歩きます。周遊する人気のパークトレインで一時先に進む仲間もあり。キンモクセイは見頃終盤で、季節を想わす香りも寂しい。中央に大ケヤキのある広い「みんなの原っぱ」には、その端っこに大きな花壇が2つあります。そこでは、コスモス、ジニア(ヒャクニチソウ)、センニチコウ、サルビア、ケイトウなどが陽の下で魅せていました。



時々、青空低くにヘリコプターが飛んだり、近くから飛行機エンジン音が聞こえたりします。ここが米軍の立川飛行場跡地につくられた国営公園（昭和天皇御在位五十年記念事業の一環として昭和 58【1983】年に開園）であり、隣接して陸上自衛隊駐屯地があることが分かります。今回が初めての来園だという仲間が、「とても広いなー」と驚き言う。ここは、広さが約 170ha（1.7km²）もあるのです。

西立川ゲートからは最奥となる砂川ゲートに近い「花の丘」では、一面のキバナコスモス（レモンブライト）が見頃になっていました。若い女性が花間道に立ってポーズを決め、下から数枚の写真を撮り合っている。そんな雰囲気のところでした。ここにいた私たち数人もグループ写真を撮ることに。



ここで折り返し、日本庭園に向かう。先着のパークトレイン組に出会う。この時期、夜散歩でライトアップ観賞用の和傘や風鈴が設置されており、昼間観賞ができました。盆栽観賞中に 12 時となり、後は速足でランチ集合の「ふれあい広場」に向かう。途中、横切りのために「みんなの原っぱ」に入り込むと、敷物に座り込んでいる小学生グループから大きな「いただきます」が聞こえる。私たちは、小声で『どうーぞ』と応えながら空かせた腹で急ぐ。



事前にランチ会食を提案していたこともあってほとんどの仲間が、青空の木陰に集まった。多人数の会食は、コロナ影響もあって久しぶりでした。アルコールをこういう機会にいつも持参する仲間が、今回は持って来ていないという。この後の訪問予定先、科学館までの25分徒歩に配慮したのかもしれない。

午後1時になり、全員で歩いて7-8分の立川ゲートに行きました。途中の人気のあるイチョウ並木は、未だ黄葉になっておらず少し早い。ここから、仲間2人はパークトレインに乗り、引き続き園内を楽しむと言う。残り14人は、ゲートを出て都道立川昭島線まで行き左折。広い中央分離緑地帯のある片側2車線道路で、その両外側に樹木を挟んで歩道があります。陸上自衛隊駐屯地の前を経由して科学館へ向けて進みます。周りは公共施設の大きな建物ばかりで歩道を歩く人は少なく、散策路として緑豊かな好コースです。ただ、今回は公園の十分な散策の後だけに、足が文句を言いたそうになるのです。励ましながら、やっと南極・北極科学館に到着（13:40頃）。科学館（入館無料）は、国立極地研究所の広報展示施設で、南極や北極でどんな観測や研究が行われているかが紹介されています。内容が少し専門的であることから、自由見学・自由帰宅にしていたのですが、結局、1時間余りで全員が一緒に退館することに。そして、8分ほど歩いて多摩モノレール高松駅に到着。

皆さん、お疲れさまでした。

